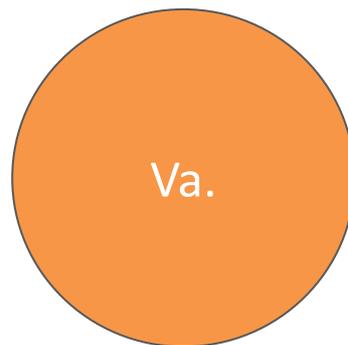
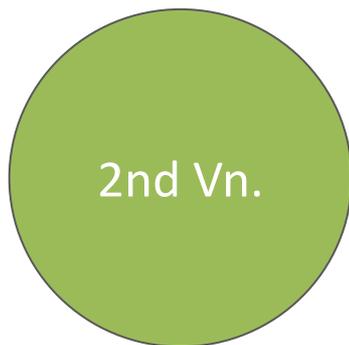
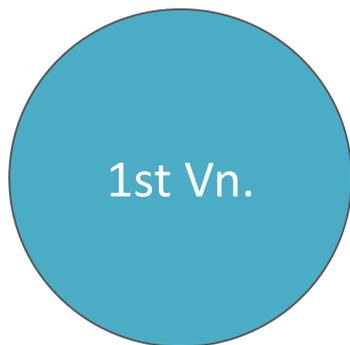


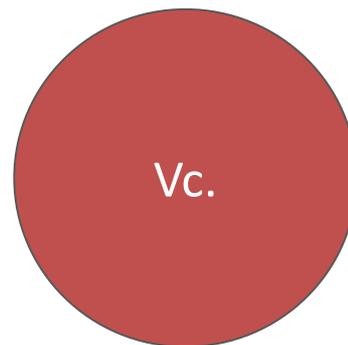
2-7 フォーム5:外声特化型

外声特化型

1st～Vla.はウワモノ(メロディ)



Vlc.はベース



外声特化型の特徴

- ① 1st～Va.までがウワモノ、Vc.がベースを担当する
- ② こちらもホモフォニー的なアレンジ形態だが、メロディとベース要素に特化した形。
- ③ 和音要素がないため、別途コード楽器との併用が不可欠。
- ④ オーケストラでは、1st～Vc.までが全てメロディ、コントラバスのみベースを担当することも。

Strings

Setebos Theo M01

稲毛 謙介

ウワモノ

A ♩ = 130

div.

Musical score for Violin I, Violin II, and Viola in section A. The score is in 4/4 time with a tempo of 130. It features a dynamic marking of *ff* and a *div.* (divisi) instruction. The Violin I part has a *7* (seven) marking under the first measure. The Violin II and Viola parts have a *7* marking under the second measure. The score consists of 8 measures.

Musical score for Violoncello in section A. The score is in 4/4 time with a tempo of 130. It features a dynamic marking of *ff* and a *3* (triple) marking under the second and sixth measures. The score consists of 8 measures.

ベース

Musical score for Violin I, Violin II, Viola, and Violoncello in section B. The score is in 4/4 time with a tempo of 130. It features dynamic markings of *fp* (fortissimo piano) at the end of each staff. The Violoncello part has a *3* (triple) marking under the second and sixth measures. The score consists of 8 measures, numbered 9 through 16.

v.s.

©2019 TEMPEST STUDIO Co., Ltd. All Rights reserved.

©OTO × NOMA ©TEMPEST STUDIO

OTO × NOMA

外声特化型のアレンジのポイント

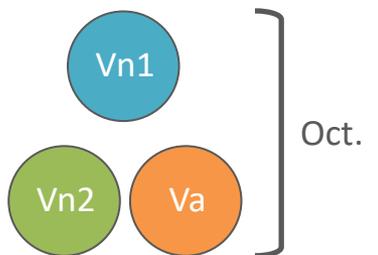
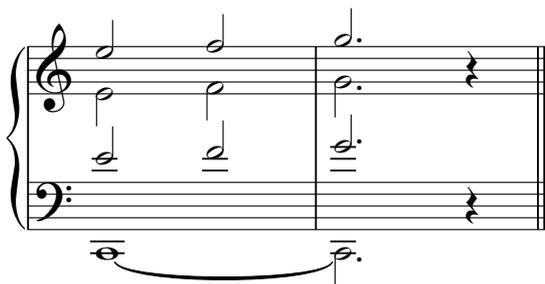
外声特化型のアレンジでは、ストリングスが担当するのは原則として「メロディ」と「ベース」だけ。言いかえれば、内声を省略した「ホモフォニー型」と捉えることもできる。

■ 外声特化型アレンジの楽器組み合わせ例

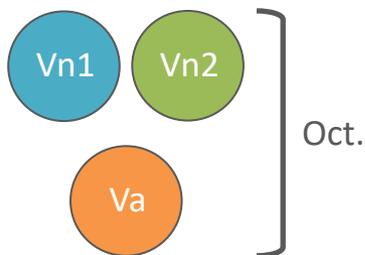
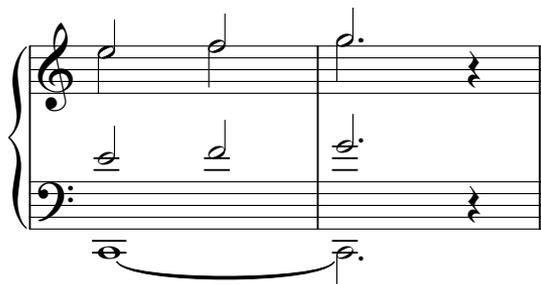
- ✓ メロディ → 1st～Va.(場合によっては～Vc.まで使うことも)
- ✓ コード → ピアノやギターなどのコード楽器
- ✓ ベース → Cello、Contrabass、その他ベース楽器
- ✓ リズム → ドラム、パーカッション、シンセのシーケンスなど

外声特化型のボーシング

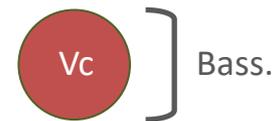
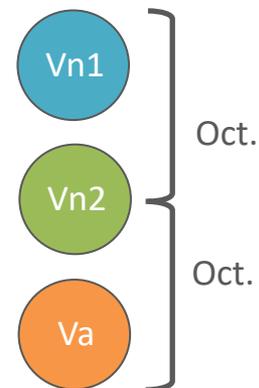
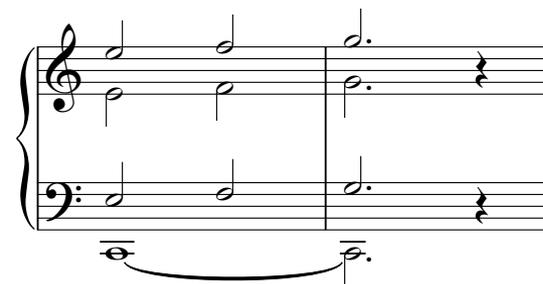
パターン1 : 1oct. (バランス重視)



パターン2 : 1oct. (トップノート強め)



パターン3 : 2oct.



外声特化型のアレンジ手順

- ① メロディを1st Violinで打ち込む
- ② メロディを2nd&Violaにコピーする
- ③ ベースをCelloで打ち込む

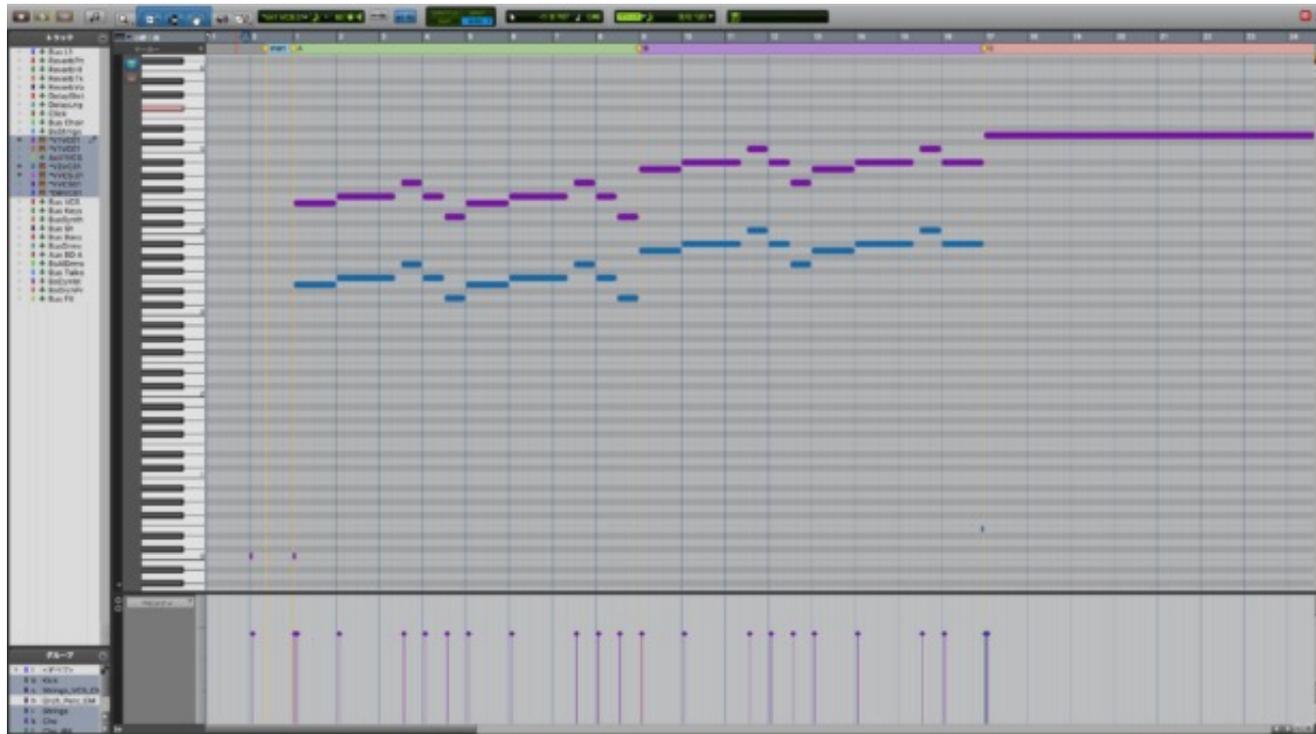
① メロディを1st Violinで打ち込む

まずは主旋律を1st Violinに打ち込んでいく。ユニゾン型同様、主旋律を演奏させても良いし、オブリガートを演奏させるのもあり。



② メロディを2ndとViolaにコピーする

1stに打ち込んだメロディを2ndとViolaにコピーしていく。各パートのボーシングは、先ほど紹介したいずれかのものを選択しよう。(下図はパターン1で配置したもの)



②の応用: 1st~Va.でハモる場合

1st~Va.は常に完全にユニゾンである必要はなく、ハモリを入れるのも効果的。単に2ndだけがハモリに回る形でも良いし、3パート全体でハモるのもOK。



③ ベースをCelloで打ち込む

最後に、ベースをCelloに打ち込んでいく。基本は各コードのルート(オンコードの場合は分母の音)を打ち込んでいけば問題ない。

